

幼児に対する性教育の実態（第2報）

井上京子¹⁾・遠藤恵子¹⁾・坪井禮子²⁾
石沢セイ子²⁾・松田水月²⁾・佐藤弘美³⁾

A Survey on Sex Education for Children in Preschools (2nd Report)

Kyoko INOUE¹⁾, Keiko ENDO¹⁾, Reiko TSUBOI²⁾
Seiko ISHIZAWA²⁾, Mizuki MATSUDA²⁾, Hiromi SATO³⁾

Abstract : The objectives of the present study were to investigate issues in sex education for infants by elucidating the actual condition of infants regarding sex from the perspective of kindergarten teachers and clarify the teachers' response behavior and confusion. A survey using the group interview method was conducted on a total of seven kindergarten teachers, and the data were analyzed by multiple researchers with a focus on the implication of the data. Based on the results, the actual condition of infants regarding sex from the perspective of kindergarten teachers was classified into the following four categories: "sex-related behavior", "impersonation", "intellectual curiosity regarding sex", and "gender-specific awareness". The response behavior of kindergarten teachers toward the actual condition of infants regarding sex included "accepting and keeping a close watch", specifically regarding the infants' condition as "changes associated with growth" or "a developmental stage", in addition to "educational guidance for each developmental stage", specifically "teaching the importance of sex organs" and "teaching manners and providing toilet training". Regarding the actual condition of infants regarding sex, kindergarten teachers expressed "impossible to understand infants" regarding the "unexpected behavior" and "unpredictable responses" of children, in addition to a "indecisiveness" due to "lack of confidence in specific judgment processes and response behaviors" and "difficulty of response behaviors". However, teachers coped with such confusion through "educational considerations" such as "diverting the child's attention", "explaining using figurative expressions", and "collaborating with parents". These findings suggest the need to evaluate the response behavior of kindergarten teachers, clarify the vague criteria that lead to confusion, and investigate specific guidance contents and methods for sex education.

Key words : sex education, infants, kindergarten teachers, interview survey

1) 山形県立保健医療大学 保健医療学部 看護学科
〒990-2212 山形市上柳 260
Department of Nursing, Yamagata Prefectural University
of Health Sciences
260 Kamiyanagi, Yamagata 〒990-2212

2) 羽陽学園短期大学
〒994-0065 天童市大字清池 1559

Uyo Gakuen College
1559 Shoge, Tendo. 〒994-0065

3) 元羽陽学園短期大学附属たかだま幼稚園
〒994-0065 天童市大字清池 1501
Takadama Kindergarten attached to Uyo Gakuen College
1501 Shoge, Tendo. 〒994-0065

はじめに

性教育は、生きていくうえでの根源的な部分に関わる教育と考えられ、子どもの発達に合わせた内容が求められる。幼児期は自我が芽生え、他者の存在を意識し、自己を抑制しようとする気持ちが生まれる時期であり、文部科学省¹⁾は幼稚園における性教育の目標を次のように設定している。

- ① 自分の誕生や男女の違いを正しく受け止めるとともに、生き物の誕生や成長にも気付き、生命の貴さを感じ取る
- ② 男女にはそれぞれ違いがあるが、どの友達も同じように大切であることを知り、友達を思いやる心情や態度を育て、将来の男女の人間関係の基礎を築く
- ③ 家族は互いに役割を分担し、助け合って生活していることに気付き、男女がいたわり合う心や、そのために自分の欲求を抑制しようとする心を育てる。

発達段階等に応じた幼児期の性教育の目標及び指導内容が体系的に示されているにもかかわらず、幼児期の性教育が十分に実践されているとはいえない現状にあると考える。

性教育について「性に関する知識を教える以上に社会的に望ましい成人としての心構えを育てる教育課題」、[ライフサイクルに応じた性的発達と変化に対して、生理・心理・社会的側面から健康的で豊かな人間性と社会性をもった性意識と性行動を身につけるような教育的援助]というとらえ方を基に、及川²⁾は性教育に関する文献を調査し、「性感情が歪められていない幼児に性をどう印象づけるかは将来まで大きな影響を与えるとんでも過言ではない」と幼児期における性に関する教育の重要性について述べている。しかし、幼児期の性教育に関して保育士や保護者を対象にした意識調査^{3)~6)}は見られるが、その数は少なく、また幼稚園における具体的な性教育の実践報告はほとんどみられなかった。

このような中で平成 17 年度より、幼稚園教諭が体験している幼児の性に関する実態と、幼児に対する性教育に関する意識を明らかにし、幼児期の性教育のあり方を考察する目的で調査を始めた。質問紙による調査の結果、幼稚園教諭は園児の性に関する質問や行動を経験し、自分の判断で対応

しているものの戸惑いを感じていることが明らかになった⁷⁾。

そこで、平成 18 年度はその結果を踏まえてさらに面接調査を行い、幼稚園教諭が体験する事例を詳細に分析し、幼児の性に関する実態や対処行動、戸惑いの内容を明らかにすることにより、戸惑いが生ずる背景や対処行動の判断過程を考慮し、幼児期に必要な性教育の具体的な指導内容や指導方法を検討するための示唆が得られると考えた。

研究目的

本研究では、幼稚園教諭が体験している幼児の性に関する実態と対処行動、幼稚園教諭の戸惑いの内容を明らかにすることを目的とした。

研究方法

1. 研究デザイン

本研究は、幼稚園教諭が体験している幼児の性に関する実態と対処行動、戸惑いの内容を、半構成的質問を用いたグループインタビュー法によって明らかにしていく質的帰納的研究である。

2. 研究参加者

グループインタビュー法を用いることを考慮し、研究参加者の人数(通常 6~12 名)をあらかじめ設定した。また、研究参加者の選択基準は、教諭歴が数年以上あり、実際に幼児の性に関することで困った経験のある幼稚園教諭とした。研究参加者は、対象となる複数の幼稚園長に文書にて調査研究への協力を依頼し、人選された幼稚園教諭で研究参加に同意の得られた 7 名である。

3. 調査方法

本研究では、個別面接法ではなく、グループインタビュー法によるデータ収集を行った。グループインタビュー法は、グループダイナミクスを活用しながら質的に情報を把握する科学的な方法論のひとつである。複数の参加メンバーのダイナミックなかかわりによって生まれる情報を、系統的に整理して「科学的な根拠」として用いる。グループインタビューでは、「生の声そのままの情報」を生かすことができ、量的な調査では得られない「深みのある情報」と、単独インタビューでは得られない「積み上げられた情報」、「幅広い情

報], 「ダイナミックな情報」を得ることが可能になるといわれている⁸⁾。

「幼児の性教育」をテーマとする本研究においては、グループインタビュー法を用いることにより、幼児の性に関することで困った経験のある幼稚園教諭が集まり、その相互作用により、自分でも気付かなかった点が見えてきたり、一緒に参加しているメンバーの発言を聞き追加で意見を述べたりすることで、個別面接法よりも楽な気持ちで表現することができる。また、自発的な発言が引き出され「なまの声」として直接反映できると考えた。

グループインタビュー法は以下の流れに沿って実施した。

1) 準備

研究者間で、グループインタビューの場所や使用する機材、スタッフの確保を行い、インタビューア、専門の内容を担当するサブインタビューア、筆記記録者等の役割を分担した。事前に調整し決定した日時や場所について、研究参加者に案内状を送付した。

2) 実施

グループインタビューは、平成19年3月1日に実施した。実施に際して、開催目的やグループインタビューの方法を説明し、インタビューガイドに沿った半構成的質問で開始した。質問内容は、①幼児との関わりのなかで性に関して苦労したことや困ったこと、②苦労したときや困ったときにどのような対応をしたのかであった。グループインタビューの時間は90分とし、インタビュー内容について、研究参加者の許可を得てテープに録音した。

4. 分析方法

分析は、グループインタビューで得られた研究参加者7名の表現をそのまま用いる「記述」を中心に分析する記述分析法を用いて分析した。記述分析法は、参加メンバーの「なまの声」がそのまま生かされ、それが強調される方法だといわれている⁸⁾。表現した内容に注目し、それが何を意味しているのかに焦点を当て、質的帰納的に分析を行った。分析者は、小児科医師や保健師の資格を

持ち幼稚園教諭の育成に携わる教員、幼稚園教諭経験者、看護大学で母子看護学を担当する教員で構成され、複数回意見を交換し、多角的に分析した。

まず、研究参加者の録音内容を逐語録に起こして単純記述データとし、データを繰り返し読み、テーマに照らし合わせ重要だと思われる内容を抽出した。幼稚園教諭が経験している幼児の性に関する実態と対処行動、また幼稚園教諭の戸惑いと思われる内容について、意味的特性を推論し、文脈上同義語とみなせるものを集めて文脈的表象(以下コード)を付した。次に類似したコードを整理して説明概念(以下サブカテゴリー)を作成し、さらに類縁性を有するサブカテゴリーをカテゴリーとしてまとめた。

5. 倫理的配慮

研究参加者に、研究目的と方法、および自由意思による研究参加、不利益の回避、研究結果の公表や匿名性等の倫理的配慮事項を明記した依頼文書を送付し、同意書の記載により研究参加の意思を確認した。研究参加者により話された内容はすべて匿名で報告し、個人の名前や幼稚園名が外に出ることはけっしてないこと、録音されたテープは報告終了後責任をもって破棄することを保障し、インタビュー内容を録音することについて研究参加者に承諾を得た。また、研究参加者の都合に合わせたインタビュー日程や参加者の負担が少ない時間や場所を調整したうえで調査を行った。

結 果

研究参加者は、女性の幼稚園教諭7名で、年齢が35～52歳、教諭歴が16～31年であった。

研究参加者である7名のインタビュー内容を分析した結果、幼稚園教諭が体験している幼児の性に関する実態について抽出されたカテゴリーを表1に、幼稚園教諭の対処行動について抽出されたカテゴリーを表2に、幼稚園教諭の戸惑いについて抽出されたカテゴリーを表3に示した。

なお、本文は、【 】はカテゴリー、『 』はサブカテゴリー、< >はコードを表記した。

表 1 幼児に対する性教育の実態に関するカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
性に関する行動	自分の性器を触る	うつぶせに寝転がって性器を触っている
	自慰行為	角に（性器を）こすりつけている
	教諭にキスを求める	ベロを出して「チューしたい」とか「チューしろ」とか言う
	教諭の胸を触る	おっぱいを触りたがる
	自分の性器を見せびらかす	オチンチンを見せて笑いをとっている
模倣遊び	お母さんごっこ	おなかに赤ちゃんの代わりにぬいぐるみを入れて遊ぶ 赤ちゃんにミルクを飲ませたり、赤ちゃんを寝かせる
	出産ごっこ	包丁（メス）でジョキジョキ切って赤ちゃんを出します ここからオギャー、おめでとう
	お医者さんごっこ	服の上からや実際におなかを出して、聴診器に見立てたものを当てたりしている ズボンを下ろし「（ぼくは）オチンチンが痛い」と言い注射の真似をする
性に関する知的探究心	男女の性器の違いに興味・関心を示す	男の子はオチンチンあるんだよね 女の子はオチンチンないの？ どうして？
	男女の排尿姿勢の違いに興味・関心を示す	男の子が立っておしっこしているところを珍しそう（不思議そう）に見ている 女の子が立っておしっこをしている
	赤ちゃんの誕生に興味・関心を示す	赤ちゃんはどこから生まれてくるの？ お母さん、赤ちゃん産むときに血が出たんだよ
男女の性別意識	羞恥心の芽生え	男の子も女の子も胸や下腹部を隠しながら着替えている

表 2 幼稚園教諭の対処行動に関するカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
受け止め見守る	成長に伴う変化であると考え	子どもにとって初めての集団死活の中で出会う性の違いに対する気づきである 集団生活の中で覚えていく生活習慣である
	発達段階であると考え	模倣する時期であり、模倣の中から模倣を通して覚えていく 子どものこんな部分は次へのステップである
	子どもの感じ方を尊重する	子どもたちなりによく見ているし聞いている 子どもたちなりに感じている 子どもの寂しさや不安の表れである
発達段階に合わせた教育的指導	性器の大切さを知らせる	そこは大切な部分なので見せちゃいけないんだよ 大切にしなければいけないんだよ
	排泄習慣やエチケットを教える	男の子は立って（おしっこを）やってみよう 女の子には座ってやってみよう ドアの開閉や手の洗い方を教える
	性器の清潔保持の必要性や方法を教える	大事なところだから、ばい菌が入ったら困るね
教育的配慮	子どもの気をそらす	手はちゃんとおひざに置いて聞こうね 料理が上手にできたから食べてみようか
	比喩的な表現で説明する	神様がそうしてくれたのかもね お雛様とお内裏様に見立てて説明する
	保護者との連携を図る	保護者に幼稚園でのことを話したり、家での様子を尋ねる 保護者に連絡して子どもの寂しさを埋めてもらう

表3 幼稚園教諭の戸惑いに関するカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
理解できない子ども	予想外の子どもの言動	そこまで現実的なことを知っているのか そんなことをする子どもだったのか
	予測できない子どもの反応	子どもがどう反応するのかわからない
判断できない自分	対処行動の難しさ	受け止めることも教えることも難しい どこで制止すればよいのか難しい
	具体的な判断過程や対処方法に対する自信のなさ	善いことなのか悪いことなのか どこまで言ってよいのか どのように言えばよいのか

1. 幼稚園教諭が体験した幼児の性に関する実態

幼稚園教諭が体験した幼児の性に関する実態は、【性に関する行動】、【模倣遊び】、【性に関する知的探究心】、【男女の性別意識】の四つのカテゴリーに分類された。

1) 【性に関する行動】

このカテゴリーは、ままごとや昼寝のとき、またプールの休憩時などにくうつぶせに寝転がって性器を触っている>という『自分の性器を触る』ことや、<角に(性器を)こすりつけている>という『自慰行為』のほか、頬にチュッという程度のかわいいキスではなく、<ペロを出して「チューしたい」とか「チューしろ」とか言う>ように『教諭にキスを求める』、話をしてもくおっぱいを触りたがる>という『教諭の胸を触る』、テレビの影響でお尻を出したりするのを平気でやっている子が多くなり、それを受けてくオチンチンを見せて笑いをとっている>と表現されるような『自分の性器を見せびらかす』という五つのサブカテゴリーで構成されていた。

2) 【模倣遊び】

このカテゴリーは、<おなかに赤ちゃんの代わりにぬいぐるみを入れて遊ぶ>やく赤ちゃんにミルクを飲ませる、赤ちゃんを寝かせる>などの日常生活をまねるような『お母さんごっこ』や、<「包丁(メス)で切ります」とか「ジョキジョキ切って赤ちゃんを出します」と言い、切る真似をする>やく「ここからオギャー」「ああ、生まれたね。おめでとう」と言う>ように帝王切開をまねる『出産ごっこ』、<服の上から聴診器に見立てたものを当てたりしている>

<実際におなかを出して聴診器に見立てたものを当てる>や、<ズボンを下ろし「(ぼくは)オチンチンが痛い」と言い「お尻に注射をします」と言って注射の真似をする>などの『お医者さんごっこ』の三つのサブカテゴリーで構成されていた。

3) 【性に関する知的探究心】

このカテゴリーは、<男の子(お父さん)はオチンチンあるんだよね>、<女の子(お母さん)はオチンチンないの? どうして?>という『男女の性器の違いに興味・関心を示す』場面や、<男の子が立っておしっこしているところを珍しそう(不思議そう)に見ている>、<女の子が立っておしっこをしている(男の子を見てまねをする)>、<男の子が座っておしっこをしてトイレトペーパーで拭いている>などの『男女の排尿姿勢の違いに興味・関心を示す』場面、<赤ちゃんはどこから生まれてくるの?>やくお母さん、赤ちゃん産むときに血が出たんだよ>という『赤ちゃんの誕生に興味・関心を示す』場面の三つのサブカテゴリーで構成されていた。

4) 【男女の性別意識】

このカテゴリーは、<(遊びの中で)男の子はあっち行ってと言う>という場面や、<男の子も女の子も胸や下腹部を隠しながら着替えている>という『羞恥心の芽生え』がサブカテゴリーであった。

2. 幼児の性に関する幼稚園教諭の対処行動

幼児の性に関する幼稚園教諭の対処行動は、【受け止め見守る】、【発達段階に合わせた教育的指導】、【教育的配慮】の三つのカテゴリーに分類された。

1) 【受け止め見守る】

このカテゴリーは、幼児期に見られる性に関する実態に対し、〈子どもにとって初めての集団生活の中で出会う性の違いに対する気づきである〉、〈集団生活の中で覚えていく生活習慣である〉というような『成長に伴う変化である』、また幼児期はく模倣する時期であり、模倣の中から、模倣を通して覚えていく〉、〈子どものこんな部分は次へのステップである〉というような『発達段階である』、〈子どもたちなりによく見ているし聞いている〉、〈子どもたちなりに感じている〉、たとえば性器いじりなどはく子どもの寂しさや不安の表れである〉というような『子どもの感じ方を尊重する』という三つのサブカテゴリーから構成されていた。

2) 【発達段階に合わせた教育的指導】

このカテゴリーは、〈そこは大切な部分なので見せちゃいけないんだよ〉、〈大切にしなければいけないんだよ〉と『性器の大切さを知らせる』、〈男の子は立って(おしっこを) やってみようか〉、女の子にはく立ってやるとうまくできないね〉、〈座って(おしっこを) やってみようか〉などの排泄行動や、その一連の行為としてくドアの開け閉めや手の洗い方を教える〉などの『排泄習慣やエチケットを教える』、またく大事なところだからばい菌が入ったら困るね〉という『性器の清潔保持の必要性や方法を教える』の三つのサブカテゴリーで構成されていた。

3) 【教育的配慮】

このカテゴリーは、絵本の読み聞かせやお話中、あるいはおままごとの合間に性器さわりをしている場面などで、〈手はちゃんとおひざに置いて聞こうね〉、〈お料理が上手にできたから食べてみようか〉というように『子どもの気をそらす』、男女の性器の違いでは、〈神様がそうしてくれたのかもね〉とか、相手の存在を大切にするという意味でくお雛様とお内裏様に見立てて説明する〉など『比喩的な表現で説明する』、〈保護者に幼稚園でのことを話す〉やく保護者に家での様子を尋ねる〉、必要時にはく保護者に連絡して子どもの寂しさを埋めてもらう〉などの指導的なかわりとして『保護者との連携を図る』というような三つのサブカテ

グリーで構成されていた。

3. 幼児の性に関する幼稚園教諭の戸惑い

幼児の性に関する幼稚園教諭の戸惑いは、【理解できない子ども】と【判断できない自分】の二つのカテゴリーに分類された。

1) 【理解できない子ども】

このカテゴリーは、例えば出産の話題で、「血が出るんだよ」という幼児の発言にくそこまで現実的なことを知っているのか〉と驚いたり、性器いじりの場面でくそんなことをする子どもだったのか〉と少なからず衝撃を受けたりするなどの『予想外の子どもの言動』、絵本に始まりさらには汨濫する性情報を子どもが目にした場面でく子どもがどう反応するのかわからない〉といった『予測できない子どもの反応』の二つのサブカテゴリーで構成されていた。

2) 【判断できない自分】

このカテゴリーは、〈受け止めることも教えることも難しい〉、〈どこで制止すればよいのか難しい〉というように、対処行動は取っているものの振り返ったときに感じる『対処行動の難しさ』や、幼稚園教諭自身が受けた性教育の経験や性に対する羞恥心などからく善いことなのか悪いことなのか〉、〈どこまで言ってよいのか〉、〈どのように言えばよいのか〉などに自信がないという『具体的な判断過程や対処方法に対する自信のなさ』の二つのサブカテゴリーで構成されていた。

4. 幼稚園教諭が体験した幼児の性に関する実態と対処行動

幼稚園教諭が体験した幼児の性に関する実態と対処行動について抽出されたカテゴリー間の関係性を検討し、特徴的なインタビュー内容を抜粋して述べる。

【性に関する行動】、【模倣遊び】、【性に関する知的探究心】、【男女の性別意識】で構成された幼稚園教諭が体験した幼児の性に関する実態において、幼稚園教諭は基本的に、幼児にとって初めての集団生活の中で出会う性や習慣の気づきであり、『成長に伴う変化である』、『発達段階である』と考える』というとらえ方をし、「そうなの」とか「そうだね」と『子どもの感じ方を尊重する』とい

うような【受け止め見守る】という対処行動をとっていた。

- ① 私はずっと3歳児を受け持っているのですが、子ども達の中では自慰行為とかお昼寝の時に触ったりとか、子どもと一緒に添い寝をするとお母さんにするようにオッパイに触ったり、ピタッとくっついたりする子はいるのだけれど。それはそのまま受け止めて、私は寝かせたりしています。
- ② 子どもの遊びの場面で、お腹の中にぬいぐるみを入れて、出産場面のように遊んでいることがあって…。そこで「いやらしい」とかいうような受け取り方はしないで見守りながら「赤ちゃんが生まれたの、そうなの。」とそのまま次はどうするのかと見ていると生活を見ていることをそのままやっている。(中略)初めて出会う「性」ということでは、ある意味で男女の違いとかを教えていく上では、言葉を選んで教えなくちゃいけないなというのを感じます。
- ③ 今現在、私は年長の担任をしていて、年少からずっと持ち上りの子ども達です。で、プールとかの着替えの場面で、年少の時はみんなかまわずワーツと着替えをして、年中も変わらなかったのですが、やっぱり年長になると、女の子は隠しながら意識して着替えている。男の子も「オレも隠してみるかな」みたいな感じで…。そういうところが見られて「ああ、これも成長なのかな」って、ちょっと嬉しいような感じで、その時はその様子を見ていました。

中でも【性に関する知的探究心】に対しては、『性器の大切さを知らせる』、『排泄の習慣やエチケットを教える』、『性器の清潔保持を教える』など【発達段階に合わせた教育的指導】という対処行動をとっていた。

- ④ 幼児ってやっぱり知りたいのですよね。年少なんかでも、珍しいものを見ると自分も真似したりということがあるのですけれど。女の子が立ってオシッコしていたっていうのがありましたが、その逆バージョンで男の子が個室に入って座ってオシッコをして、トイレトペーパーで拭いて処理して出てきたっていう場面もあるのですね。で、それを見て模倣する時期なのだろうと、年少さんはそうやって覚えていくのだ

らうと思うのですが…。若いお母さんで、排泄トレーニングをどう教えたらいいか迷っているっていうか、分からない人がいて。男の子なのですね…。トイレもやっぱり洋式が多いので、そのまま座って用を足すのでそういう癖がついている。「幼稚園では立ってするような便器だから、幼稚園では立ってやらせているんですよ」っていうお話をすると、「え、立ってやるんですか」って不思議がられて。「その、立ってやる方法というのは、どうやって教えたらいいんでしょうか」って言うお母さんがいらっちゃって。「それは、お父さんにも一役買ってもらって、お父さんのを見ながら覚えるというのも、一つの方法ですよ。」と言って対応しますが、男の子だったらオチンチンを伸ばしてすると、オシッコもひっかからずにできるんだということを教えるんです。それでも若いお母さんは、ちょっと迷っている、どうやって対応したらいいのかわからないというのが多くなってきているみたいなんですけれど。

- ⑤ いろんな面で子ども達に聞かれたときには、それなりに、逃げてはいけないのではないかって思うし。やっぱり、それなりに、答えや対応の仕方なんですけれど、それは年齢的に分かるような言葉とか、絵本で知らせるっていうような場面もあると思うんですけれども。どこまでっていうのは、自分自身も迷いはあるんですけれども、そういうところは自分達で選んだり考えたりしていかなくちゃいけないと思っていますね。

また、幼稚園教諭は、【性に関する行動】や気になる【模倣遊び】の場面では、「なんかおかしいと思ってみている」とか、「わざと…している」、「隅のほうとか物の陰に隠れてこそこそしている」というようなことばで表現し、『予想外の子どもの言動』や『予測できない子どもの反応』に戸惑いを表出した。そして、善いことなのか悪いことなのか、静止してよいのかどうかの判断（理由があると考える）や、静止する場合の静止方法など『具体的な判断過程や対処方法に対する自信のなさ』や、受け止めることも教えることも難しいという『対処行動の難しさ』を表現していた。しかし、戸惑いは隠せないものの、幼稚園教諭は、『子

どもの気をそらせる』、『比喩的な表現で説明する』、『保護者と連携をとる』など【教育的な配慮】というような対処行動をとっていた。

- ⑥ 現在は年中児, 4 歳児を担任しています。ウチのクラスの女の子 2 人が…, お昼寝がある時期, …寝付くまでにちょっと時間がかかる子で。何をしているのかと見ると, 腹ばいになってこう…, 性器いじりをしている。日頃はすごく元気でリーダーシップが取れる子で, 体は小さいけれど, ウチに弟のいる女の子で。で, すごく慕われる人気者タイプの子で, 生活的には心配の無い子だったので, ちょっとショックっていうかドキッとしてどうしたんだろうということ…。
- ⑦ 自由遊びとか, 活動の合間の時間で手持ち無沙汰になると, 角にスリスリをする女の子がいて。私も手をつないで「○○ちゃん, 外に遊びにいったらいいよか」となるべく気をそらせるようにしてはいたんですが, ふっと見るとやっている。こう, 宙に浮くような感じで…。迷ったのですがお母さんに「家では最近どうですか? 気になることはありませんか?」と遠まわしに聞いてみたら, 「今, 下の子がお腹の中にできて調子が悪かったりして, 実家に帰ったり…」ということがあり, 弟ができた時期に繰り返したりすることがわかった。
- ⑧ お昼寝中にという子は, お母さんが最近叱ることが多かったかもしれないということで。「何かありましたか?」って聞かれたので正直に話したのです。「実はこういうことがあったって。でも, 遊びもできないわけじゃないし, 楽しそうだから, 心配はないのですけども」って。そうしたら, 「わかりました。ウチでも怒らないで向き合って, 一对一の時間をとってみます」と言ってくださり。それから子どもも落ち着いて, 仲のいい友達も見つけられ, 今はそういうことはありません。だからやっぱり, 何らかの理由があるんだなということで, 自分でも学んだというか…, 戸惑いはあった…。本当は, 自分の中では「ダメだ。そんなことをしちゃダメだよ」って言いたい自分と, 「待てよ, そんなことを言ってしまうのだろうか」とか, そういう迷いもあったりしたのですけれど。先輩の先生に聞

いたりして, 対応してみました。

- ⑨ なんだかおかしいな…っていうときは, こうやってめくって…。(中略) 見ていないところでは, エスカレートしている部分もあるのかな。でも, まだこのぐらいだったら止めなくても, 様子を見守るぐらいでいいのかな, とか思いながら見ているのですけれど。オチンチンとかを出して, まじまじと見ていたりすると「ここはすごく大切なところだよ。バイキンが入ったら困るよね」とか言いながら, その部分を隠させてしまったりする自分がいます。それは良くないことなのかいいことなのか, 私もよくはつきりわからないんですけど, 私はそんなふうにはしています。他の先生はどんなふうにするのか, 聞いてみたいと思っていたところです。

考 察

1. 幼稚園教諭が経験している幼児の性に関する実態と対処行動

幼稚園教諭が体験した幼児の性に関する実態の【性に関する行動】を構成するサブカテゴリーである『自分の性器を触る』、『自慰行為』、『教諭にキスを求める』、『教諭の胸を触る』については, 著者らが実施したアンケート調査⁷⁾でも, 回答数の多い項目であった。自慰も含め広い意味での幼児期の性器いじりは, 性的な意味は少なく, 指しゃぶりや爪かみなどの身体玩弄癖の一種と考えられている¹⁰⁾。成長発達過程であられる生理的なものであり, ほとんど特別な対処を必要としないので, できる限り介入せず, 自然の成り行きに任せる対応が望ましいとされている¹¹⁾。幼稚園教諭は, 性器いじりに対しては状況に応じて遊びや運動に誘って注意をそらす声かけを行う対応を繰り返すことが効果的だということを知っており, それを実践していた。しかし, 習慣化している場合には, 何か対応が必要なのではないかと迷うことが多いと推察される。性器いじりは分離不安を背景にして始まるともいわれ, 心理的な問題を抱えていることもあり, 本研究の事例も, 性器いじりをする幼児の寂しさや不安定な気持ちを察し, 幼稚園教諭が家族に働きかけるきっかけとなっていた。また, 性器いじりを繰り返すことにより起こり得る外陰部の刺激に対し, 予防の意味でも清潔の重要性を教えることが必要になってくると考える。

人間は模倣を通して新しい行動を獲得し発達が促進される。性教育を効果的に実施するうえでも、【模倣遊び】は重要な役割を持っていると考えられる。幼児は“ごっこ遊び”の中で、日常生活で得た学びを再現している。それは幼稚園教諭にとって成長発達を感じるほほえましい光景でもあり、またそこまで知っているのかと驚く場面でもあった。遊びの中で性に関する行動が助長される場合もあり、指導が必要と感ずることもあった。幼稚園教諭が体験している“指導が必要な場面”を分析することは、具体的な性教育の指導内容や指導方法を検討する資料になると考える。遊びは重要な学びの場であり、性教育の場としてその機会を逃さないことが重要である。

【性に関する知的探究心】については、筆者らのアンケート調査⁷⁾でも、また野口ら⁴⁾の調査でも、園児から性に関する質問を受けたことのある幼稚園教諭が多かった。知識欲求が盛んである幼児期は、自分の性別を認識し、性役割を学習していく時期と考えられる。幼児は、初めての集団生活の中で男女の排尿の姿勢の違いやトイレの使い方の違いに気付き、興味・関心を示していた。この排尿姿勢等の違いから、幼児は性器の違いに気づき、また男女の生殖器の違いから「自分は男である」、「自分は女である」ことを知ることにつながる。文部科学省¹⁾は、「体の発育・発達に伴う性に関する発達課題と指導内容」を設定し、「身体計測や排尿や排泄場面等の事象をとらえて男女の体の違いに気付かせ、自分の性別を認識させることが大切である。それと同時に性器の大切さ、排泄の習慣やエチケット、体や性器の清潔保持の習慣をつけさせる必要がある」としている。幼稚園教諭は、幼児の【性に関する知的探究心】が性教育を行ううえで鍵となり、自分たちの実践している対処行動が性教育の一環であることを認識することが大切であると考えられる。

異性を排斥したり自分を隠したりする行為として分類した【男女の性別意識】も、幼児期にはつきりしてくる成長発達の現われである。文部科学省¹⁾が、幼稚園の性教育の目標に掲げた「男女の人間関係の基礎を築く」ことにつながり、相手を思いやることを教える絶好の機会になるといえる。

幼稚園教諭は、【性に関する行動】、【模倣遊び】、【性に関する知的探究心】、【男女の性別意識】とい

う幼児の性に関する実態に遭遇し、【受け止め見守る】、【発達段階に合わせた教育的指導】、【教育的配慮】という対処行動をとっていた。しかし、幼稚園教諭はその対処行動を、常に性教育という観点でとらえながら実践しているわけではないと思われる。幼児との日々の関わりの中で、幼稚園教諭が実践していることを見つめなおし、幼児期における性教育のあり方を検討しながら、具体的な指導内容や指導方法に結び付けていくことが必要である。

2. 幼稚園教諭が体験した幼児の性に関する戸惑い

幼稚園教諭は、幼児期の【性に関する行動】や気になる【模倣遊び】に対して【教育的な配慮】で対処はしているものの、【理解できない子ども】や【判断できない自分】に対し戸惑いを示していた。

筆者らのアンケート調査⁷⁾で、幼児に対する性教育で困っていると回答した幼稚園教諭は約26%であり、困っている内容としては、教え方がわからないことや、知識不足、学習の機会がないことが挙げられていた。戸惑いが生じる背景には、幼稚園教諭自身が受けた性教育の経験や、判断基準の裏づけとなる根拠が曖昧であることが反映してくると考えられる。本研究では、幼稚園教諭が戸惑いを感じる“予期せぬ出来事”について語られた。幼稚園教諭が経験する事例について詳細に分析し、戸惑いが生じる背景や対処行動の判断過程を明らかにすることにより、“予期せぬ出来事”が“予想可能な出来事”になり、自信を持って対処行動がとれるようになると推察される。また、幼児の性に関する実態の事例を基に、裏づけとなる根拠を整理し、対処行動の判断基準を作成することが必要であると考えられる。

3. 幼児期の性教育の課題

平成17年度に実施した幼児の性教育に関する意識のアンケート調査⁷⁾から、幼児期の性教育の必要性が確認され、幼児期の性教育の課題として①幼児期の性教育の内容の明確化、②幼稚園教諭への学習機会の提供、③幼稚園と保護者の連携という3点が明らかになっている。本研究では、幼稚園教諭が困っている具体的事例を分析した結果、

さらに, ④幼稚園教諭の対処行動を性教育の観点で整理することの必要性が示唆された。また, 文部科学省⁹⁾が示す「生命の尊さを感じ取る」, 「男女の人間関係の基礎を築く」, 「いたわりあう心と自分の欲求を抑制する心を育てる」という性教育の目標に基づき, 幼児期の発達段階に合わせて⑤性教育の指導内容や指導方法を具体的に検討する機会を設定することが必要であると考ええる。

本研究ではデータ収集にグループインタビュー法を用いたが, 研究参加者の同グループで性教育のあり方を検討する基礎作りができたといえる。本研究における研究参加者がそれぞれの幼稚園でリーダーとなり, 幼稚園教諭が幼児の健やかな成長・発達を促す性教育を実践するために, 幼稚園教諭を育成する教員や幼児に関わる医療従事者が連携をとり, 支援していくことが重要であると考ええる。

ま と め

幼稚園教諭は, 幼稚園における保育の実際や自分自身の子育ての経験の中で, 幼児期にはっきりしてくる男女の性別意識や知的探究心については, その成長を受け止め喜び, 自然に対応できていた。しかし, 思いもかけない会話や質問など, 予想せぬ場面での性に関する出来事には戸惑いを感じ, 性に関する気になる場面では, 必要に応じて保護者と連携をとりながら対応しているものの, どのように受け止め, どんな言葉を選んでどこまで伝えればよいのかという疑問が生じていた。

幼稚園教諭自身がその事実を整理し, 性教育の絶好の機会であること, 教育的な関わりであることを認識し, さらに具体的な指導内容と指導方法を検討していくことが重要であると考ええる。

本研究は, 平成 18 年度山形県性に関する健康教育研究会自主研究補助金により実施した。

文 献

- 1) 文部科学省: 学校における性教育の考え方, 進め方. 東京, ぎょうせい, 2006.
- 2) 及川裕子: 幼児期の性教育の意義. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 11:31, 1998.
- 3) 及川裕子: 幼児期の性教育の課題—保育者の意識調査を通して—. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 14:159-164, 2001.
- 4) 野口ゆかり, 谷恭子, 野見山美和他: 幼児期の性教育—幼児期における性に関する保護者・保育士の対応と比較検討—. 母性衛生, 42(1):155-162, 2001.
- 5) 浦川智江, 出口信子: 幼児期における性教育に関する保護者の意識調査—施設助産師による性教育の役割と今後の課題—. 日本看護学会第34回母性看護収録集:64-66, 2003.
- 6) 岸千加子: 幼児期の性教育で助産師は何をになえるか—保護者へのアンケートを通して—. 健生病院医報, 26:42-46, 2003.
- 7) 遠藤恵子, 井上京子, 坪井礼子他: 幼児に関する性教育の実態. 山形保健医療研究, 10:1-9, 2007.
- 8) 安梅勅江: グループインタビュー法 科学的根拠に基づく質的研究法の展開. 医歯薬出版株式会社, 2001.
- 9) 安梅勅江: グループインタビュー法Ⅱ / 活用事例編 科学的根拠に基づく質的研究法の展開. 医歯薬出版株式会社, 2003.
- 10) 岡本夏木, 清水御代明, 村井潤一他: 発達心理学辞典. ミネルバ書房, 237, 1995.
- 11) 日本小児看護学会: 小児看護事典. へるす出版, 470, 2007.

— 2008. 3. 7 受稿, 2008. 3. 21 受理 —

要 旨

本研究の目的は、幼稚園教諭が体験している幼児の性に関する実態と対処行動、幼稚園教諭の戸惑いの内容を明らかにすることである。研究参加者は幼稚園教諭7名で、グループインタビュー法を用いた調査を実施し、複数の研究者でデータが何を意味しているのかに焦点を当てた分析を行った。

その結果、幼稚園教諭が体験している幼児の性に関する実態は、【性に関する行動】、【模倣遊び】、【性に関する知的探究心】、【男女の性別意識】の四つのカテゴリーに分類された。幼稚園教諭は、幼児の性に関する実態に対して『成長に伴う変化である』、『発達段階である』というように【受け止め見守る】という対処行動をとっていた。また、『性器の大切さを知らせる』、『排泄の習慣やエチケットを教える』などの【発達段階に合わせた教育的指導】を実践し、『子どもの気をそらせる』、『比喩的な表現で説明する』、『保護者と連携をとる』などの【教育的な配慮】で対処していた。その一方で、幼稚園教諭は『予想外の子どもの言動』や『予測できない子どもの反応』という【理解できない子ども】や、『具体的な判断過程や対処方法に対する自信のなさ』、『対処行動の難しさ』という【判断できない自分】に対し、戸惑いも表出していた。

幼稚園教諭の対処行動を評価し、戸惑いの原因と考えられる曖昧な判断基準を明確化して、性教育の具体的な指導内容や指導方法を検討していく必要性が示唆された。

キーワード: 性教育, 幼児, 幼稚園教諭, 面接調査